

私たちの活動や意見を仲間で共有します。
会費は県と日本平和委員会の活動も支えます。

土浦平和の会ニュース

2024年1月15日 第383号

発行：土浦平和の会

事務局：土浦市烏山2-530-296

HP：//tutiuraheiva.web.fc2.com/

2024年幕開け

裏金まみれの自民・大軍拡政権に審判を！

9条守れ・憲法生かせの声をおおいに広げる年に

能登半島地震 被災地域の皆さんの一日も早い復興を願います

違法な金にまみれた政権党の姿が、連日マスコミを賑わす中、新年がスタートしました。

正月の団らんを襲った能登半島地震で失われた命、必死に生きようと厳しい毎日をおくっている被災者にどれだけ寄り添えるのか、私たちにも問われています。

ロシアのウクライナ侵略につづくパレスチナの惨状も、世界の行く末に暗い影を落とし続けています。世界がこぞって侵略・戦闘の停止を求めなければならない非常時に、一部の国は“体制選択”の立場に固執し“武力には武力で対抗”という誤った選択をしています。

問題なのは、先の大戦で加害と被害の両面の辛苦を経験し、その経験から憲法9条を世界に発した日本政府が、アメリカの戦略に付き従って、あいまいで恥ずべき姿勢に

立っていることです。

“国民のくらし、自然災害への備えそっこのけで軍事予算の倍増”という現政権には、国の舵取りをする覚悟も資格もないことがいよいよ明白になりました。

今年こそ、岸田政権退場の審判をくだす正念場の年ではないでしょうか。平和の会の出番です。

(土浦平和の会理事会)



土浦憲法共同センターの街頭スタンディング、2023年は12回・122人が参加

土浦平和の会 結成から30年 節目の年

1994年(平成6年)4月30日、土浦市亀城プラザで「土浦平和の会」が結成(厳密には「再建」)されて以来、今年が30周年の記念すべき年を迎えました。

記念すべきニュースNo.1(裏面で紹介)には発足時の役員が紹介されています。すでにお亡くなりになった方、現在も健在で頑張っている方々の名前を目にし、懐かしさと歴史の重みを実感します。

中島義夫初代表理事(故人)は、「誰もが楽しく参加でき、平和と民主主義、くらしについて学び、話し合い、そして、ともに行動し『草の根』運動が広がるよう取り組む」との熱い決意を語っておられます。

土浦革新懇 が総会と記念講演会 基地の心臓部に突き刺さる「く」の字 梅沢 優 氏 百里基地「違憲」訴え半世紀を語る

と き：24年 1月28日(日)

午後1時半～

ところ：ワークヒル土浦

(土浦市木田余東台4丁目1-1)

記念講演 百里反対同盟 梅沢 優 氏

※ 記念講演後、土浦革新懇総会です。

主催：土浦革新懇

(平和・民主・革新をめざす土浦懇談会)



「代執行」による大浦湾埋立て 工事強行に断固抗議し、その中止 を求める

2024年1月11日 日本平和委員会

沖縄・辺野古新米軍基地建設をめぐり、岸田政権は1月10日、軟弱地盤の広がる大浦湾の埋め立て関連工事への着手を強行した。

政府は昨年末、軟弱地盤の改良工事に伴う設計変更申請に対し、国が県の承認権を取り上げる「代執行」に史上初めて踏み切った。これは、これ以上の基地負担を拒否する沖縄の民意と、国と対等とされている地方自治体の権利を蹂躪する暴挙である。

しかも、2013年に沖縄防衛局が埋め立て承認を受けた際の「留意事項」で、環境保全等について事前に沖縄県と協議することを義務づけられ、県が協議を求めているにもかかわらず、これを無視して工事を強行したものであり、二重、三重に民主主義を蹂躪する暴挙である。断じて許されない。

しかし、この工事は、民意に背いているという点でも、水深90メートルに広がる軟弱地盤を改良する技術がないという点でも、この地域を走る活断層によって崩壊の危険があるという点でも、完成の見込みのない無謀な計画である。このような基地建設のために2・5兆円以上の血税を投入し、世界的にも貴重な生物多様性豊かな海を壊すという、「世紀の愚行」そのものである。

私たちはこの工事をただちに中止し、計画を撤回することを、断固として求めるものである。

ご案内

憲法共同センター次回行動は 1/19

1月街頭アピール行動

憲法9条生かした平和外交を！

1月19日(金)午前10時～

ケーズデンキ真鍋店前

思い思いのメッセージ・メッセージカードを持って参加ください

「土浦平和の会ニュース」

記念すべき第1号（表面に30周年の記事）



土浦平和の会が結成されました

昨年夏から結成の準備が進んでいた土浦平和の会の結成総会が、去る4月30日亀城プラザにおいて行われました。会は、県平和委員会の飯村一雄理事長の来賓挨拶のあと、講師の都合で、第2部に予定されていた元水戸平和委員会会長の沼田清介氏の記念講演「わたしの戦争体験」から始まりました。太平洋戦争の無謀さ、残酷性、軍隊内部での陰湿な部下いじめの実態を身振りもまじえてリアルに語られました。

その後、結成に至る経過報告、規約案の提案が全員の拍手によって承認され、土浦における平和運動の重要性と今後の取り組みの基本方向を確認しました。役員は次のとおり選出されました。

代表理事 中島義夫
理事 山口雪雄 角田功井社
齊藤房雄 福田勝夫

事務局長 井上仁志

当面の行動計画

5月21日(土) 土浦周辺基地見学

陸自需品補給処朝日燃料支所、陸自霞ヶ浦駐屯地(武器補給処、航空学校)、

空自霞ヶ浦駐屯地(パトリオット基地)、陸自武器学校(旧予科練記念館)等

9月

松代大本営跡見学ツアー

歴史に学び「不断の努力」を

代表理事中島義夫

沼田先生の自らの体験をお話して語られる戦前の歴史、そして、戦禍のなかから生まれた日本国憲法の話、もっと時間をかけて聞きたかった。

戦禍の跡も生々しい教室で英語の授業をなさっていた先生の姿を重ねあわせて、私は聞いていた。一私は新制高校発足間もないころ日立で先生に教わりました。

50年前の海軍の街、そして今、自衛隊の基地のある土浦で「平和の会」が再建されました。

「誰もが楽しく参加でき、平和と民主主義、くらしについて学び、話しあい、そして、ともに行動し、『草の根』運動の輪が広がるよう取り組む」ことを皆で大切に守り育てていきたいものです。そのことが、平和と民主主義は「人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果」であり「過去幾多の試練に耐え、現在及び将来の国民にたいし、優すことのできない永久の権利(憲法93条)」として私たちは「不断の努力によって、これを保持しなければならない(11条)」と明記している日本国憲法の精神を生かすことになるのではないのでしょうか。



日本平和委員会HPより

ガザへの無差別攻撃は今すぐ中止を。ロシアはウクライナから撤退を。

- 社会保障費を削る一方で8兆円にも上る防衛予算、
- 着々と進められる敵基地攻撃のための自衛隊増強、
- 日本の戦場化を想定した基地の強靱化、
- 他方で住民を守る準備はなく監視対象に、
- 地方自治体の権利を奪って強行する辺野古基地建設、
- 墜落してもなお進める自衛隊のオスプレイ基地建設、
- 斜陽の軍需産業を立て直し、武器輸出を大幅緩和…

紛争解決に軍事力が有効だと言うのは幻想です。日本は憲法前文と9条で、軍事力の対案を示しています。

国際法と憲法9条に則った外交手腕を発揮する日本にするため、一緒に平和の世論を広げましょう。

あなたも平和委員会へ！ 平和のことなら平和新聞で！

【平和の会へのおさそいを。「平和新聞」購読も広げましょう】

- 幅広い年代からの加入を勧めましょう。ご家族・ご近所・友人・知人などにお声かけを
- 会費：月額500円、「平和新聞」(毎月5、15、25日発行)：月額593円(送料含)



土浦平和の会